

第 6 回新宿区環境基本計画策定専門部会 議事要旨

平成 24 年 1 月 19 日 (月)
午後 2 時から午後 4 時まで
新宿区役所 4 階入札室

検討概要：パブリックコメント実施結果報告、新宿区第二次環境基本計画策定にかかる答申（案）について

1 開会

(1) 出欠席者の確認

- ・事務局より出欠席者の報告を行った。(今回の欠席者：勝田委員、望月委員の 2 名)

2 議題

(1) 新宿区第二次環境基本計画素案にかかるパブリックコメント実施結果について

- ・資料 1 を用い、事務局より結果を報告した。

(2) 新宿区第二次環境基本計画策定にかかる答申（案）について

- ・資料 2 を用い、事務局より主に前回からの修正点について説明した。

(質疑応答、意見交換)

- ・1-4 頁の図 1-1 について、区の諸計画を下位計画や関連計画に区分しているが、みどりの基本計画などの関連計画も環境に密接に関わってくるものであるため区分せずと同じ枠組みにしても良いのではないか。(部会員)
- ・第 2 章の社会的動向について、生物多様性が 1 番初めにきているが、新宿の現状をみた場合にこれが 1 番目で良いのかというイメージはある。順番を再考してはどうか。エネルギー、地球温暖化、ヒートアイランド現象という並びは良いと思う。特に東日本大震災に伴う原発事故を契機にエネルギー政策の大転換が叫ばれていることもあるため、これらをはじめに持ってきても良いかもしれない。(部会員)
- ・9 月に行われた「エネルギー環境会議」の話題についても、2-3 頁か国の政策を示している 2-7 頁で示したらどうか。(部会員)
⇒ここで議論された内容については詳細各論までは詰め切れていない内容であると思うので、細かいことまでは記載しなくとも良いのではないかと思う。(部会員)
- ・2-5 頁の後半部分について、新宿区のデータを使っているのであれば、2-13 頁あたりに持って行った方が良い。(部会員)
- ・骨子のところなので合意されているかもしれないが、「グリーン経済」について、区としてどこまで踏み込んだものが言えるかが疑問。(部会員)
- ・「スマートコミュニティ」は、現在、経産省で実証実験が進められているエネルギー事業者が中心となってエネルギーインフラをやっという事業であるが、区としてこのようなエネルギーインフラがどこまで関与できるのか難しいところであると思う。インフラは事業者や国がある程度担って、区は意識付けや側面的な普及支援などのソフト面を担うべきだと思う。そうした場

合に「スマートコミュニティ」といった方が良いのか「エネルギーマネジメント」といった方が良いのかを再検討してもらえると良い。「スマートコミュニティ」という言葉は経産省の事業名であるため、国と重なるのはどうかと思う。(部会員)

- エネルギー政策の論点は、震災などに伴う災害に対する適切なシステムは何かということを中心に書くことである。分散型エネルギーが震災時にもうまく機能するというを書く場合には防災サイドとの調整も必要となってくると思うし、新宿のような密集都市で災害時にきちんと機能するシステムを作れるかどうか分からないところもあるので、災害時の対応という話しは環境サイドの計画では、あまりつつこんだ話を書かない方が良いのかもしれない。以前書かれていたような内容の方が肩の力が抜けていて良かったのではないかと思う。(部会員)
- 2-3 頁の 1 段落目と 2 段落目のつなぎで、「このような中」という表現をしているが、これだと震災時の原発事故が引き金になって再生可能エネルギーの普及・拡大などの必要性が問われているようなイメージを受けるが、これらの議論は震災の前からのことであるため、表現を再考してもらった方が良い。(部会員)
- 新宿の中での地域分散型エネルギーとは何かという疑問がある。そのあたりは分かりやすく整理した方が良い。(部会員)
⇒地域分散型エネルギーというのは、災害時のリスクを軽減するためにエネルギーの分散化にも取り組んでいくことが今後は重要であるという意味合いで追加された事項であったと認識している。ただ、ご指摘の通り、あまり突っ込みすぎてもいけないのかなとも思う。(部会員)
- 「新宿力」というキーワードがパブコメでもあまり言及されておらず、計画の中でも薄くなってしまったことは残念に感じた。「新宿力」の中にはアカデミックな面も含まれていたと思うが、スマートコミュニティなどについても、例えば商業地域でやるとこうなるとか、テーマ出しをしながら、大学などの学術機関と連携した新宿型のモデルを創り上げていくということがあっても良かったのかなと思う。「新宿力」などのキーワードを使って、もう少し独自性のある計画にしても良かったのではないかとも思う。(部会員)
- 「東日本大震災」という言葉のあとに、全て「原発事故」という言葉が入っているが、「大震災」＝「原発事故」ではなく、津波などの自然の脅威に対する準備とかいろいろな側面もあるので、原発事故と切り離して表現する必要がある箇所については注意してほしい。(部会員)
- 第 5 章の中で、横断的な観点については全体的な事項であるため表記を無くしたとのことであるが、横断的な観点については特に大事なことであると思うので、前に出して特出しするとか強調して書いてもらった方が良い。たとえば、第 3 章の「3 5 つの基本目標」と「4 横断的な観点」を逆にするぐらいにしないと大事なところが埋没してしまうと思う。行政の計画だと行政がハタを振ってやっていくというイメージもあるが、そうではなくて、みんなでやっていくんだよという意味で「参加・協働」を強調した方が良い。(部会員)
⇒3-3 頁の図がそのあたりを表していると思う。矢印がどちらかということはあるが、「地域資源を活かし」＝「新宿力」、「区民・事業者・区が一体となって」＝「参加・協働」であり、それがベースになって下の基本目標を実行していきましょうということだと思う。(部会員)
⇒「目指すべき環境都市像」を実現するために「横断的な観点」が必要であり、その個別の柱となる「基本目標」がそれぞれあるというのが、今まで議論してきた基本的な思想であるため、「横断的な観点」を「基本目標」の前に持ってきた方がそのイメージを伝えやすいと思う。(部会員)
⇒「参加・協働」がベースでしっかり強調するという方向で、3-3 頁の図の表現や目次構成について

ては再考する。(事務局)

- 3-8 頁で若干ふれられているが、空き家の問題について、新宿区として今後どのように取り組んでいくかという方向性を踏まえた文章などはこの計画に入るのか。(部会員)
⇒足立区などで積極的に取り組まれているようであるが、新宿区でも環境サイドや危機管理サイドが連携しながら、条例の制定なども視野に入れて対策を検討中であり、現状で書ける範囲で記載していこうと思っている。(事務局)
- 2-8 頁の「第 1 回リサイクルフェア」の写真について、以前からやっているのだということ表現したくて平成 3 年のものを載せていると思うが、写真に対するコメントもないので意図が伝わりづらく、逆にリサイクル活動センターの建替え等もあり、最近の活動状況が分かる写真を載せた方が効果があるのではないか。(部会員)
⇒ご指摘の通り、以前から取り組んでいるということを示したくてこの写真を記載した。昔からリサイクルに対して取り組んできたということを強調したかった。(事務局)
⇒そうであるなら、文章中にもその旨を記載すれば良い。(部会員)
⇒文章や写真については再考する。(事務局)
- 第 4 章や第 5 章で数値目標が示されているが、これは根拠のある数字か？また、数字がなく矢印になっているものの意味合いは何か？今後、P D C A など計画の進捗をチェックする上で返答に困る場合も出てくることも想定されるので根拠などを説明できるようにしておいた方が良い。(部会員)
⇒数値などを具体的に積み上げたものではなく、現状を踏まえて区の中でどれくらいならいけそうかということを検討しながら決めた期待値的な数値である。重点的な取り組みの中で矢印になっている項目については、管轄している環境学習情報センターなどに聞き取り等を行ったが数値的なものは出しにくいとのことで、できるだけ増やしていこうということで、このような表現になった。(事務局)
- 数値目標の目標年次がまちまちであるがどういうことか。(部会員)
⇒平成 34 年はこの基本計画の目標年次であるが、平成 27 年は区の実行計画の区切り、平成 29 年は総合計画の目標年次であり、それぞれ明確な数字が出されているものはそれを記載している。第 5 章ではどの数値を使っているかということ備考欄に記載している。(事務局)
⇒平成 27 年、平成 29 年はあくまでも中間点であり、数値目標の数値が期待値的なものであるなら、平成 34 年の数値もほしい。(部会員)
⇒期待値であるならば、明確な数値ではなく、例えば、環境学習に参加する児童を現在の倍にするとか、5 人に 1 人の割合を 3 人に 1 人に増やすとかという表現にしてもいいのではないか。(部会員)
⇒行政が責任を持って把握している数字がこれだということを出していると思うが、例えば、4-5 頁の環境学習発表会の参加者数というのは、年に 1 度ある発表会の参加者数であるため、実際の環境教育の推進を表す数字ではない。このように目標数値を示す項目についてはもう少し検討する必要があるのかもしれない。(部会員)
⇒川崎市の事例では、授業コマ数を積み上げた数値をあてている例もある。(部会員)
⇒4-5 頁のリサイクル活動センターに関する数値目標も出せると良い。(部会員)
⇒小学校 4 年生を対象に環境日記などの取り組みをやっていると思うが、そういうものの冊数などを活用しては。(部会員)
⇒数値目標については数値の出し方なども含めて再度検討する。(事務局)

- ・計画を進めていく上で予算などは考えなくて良いのか？例えば、再生可能エネルギーの固定価格買取制度などは国ではお金を出せないという。では、誰がお金を出すのか、結局は庶民の負担が増えるだけではないのかという懸念が出てくる。(部会員)

⇒今後、実行計画を策定する段階でこの基本計画に載っているものなどは予算が担保されていくことになる。固定価格買取制度に関する賦課金などの仕組みについては、国の方で検討されるものなので、区としてどうするとかはあまり言えないところでもある。(事務局)

⇒政策を考える上では必ず財源という問題はあると思うが、10年先の財源までを考慮して計画を立てていくのはなかなか難しい。そうした場合に、行政だけでできる訳ではなく、民間でも自分たちで頑張っていきたいと思いますということで、グリーン経済という新しい観点を入れた。これにより、技術変革によるコストの低減など新しい知恵をどんどん出していこうという動きにつながると思う。(部会長)
- ・資料2についてはパブコメの意見を踏まえた上で修正されたとのことであるが、まだ対応されていない項目もあり、今後これらに対応した場合に今のものに大きく影響を与えそうなものはあるのか。(部会員)

⇒この答申案が最終的に区の計画になっていくというイメージを持っているが、専門部会は今回が最後であり、今後、環境審議会などでも意見が出た場合には、事務局と部会長で調整することは出てくると思う。また、最終的には区の行政計画であるため、区内の調整会議などでの微調整もでてくる可能性もある。
- ・パブコメでは16人の方から113件(説明会を抜いた数字)の意見が寄せられているとのことだが、意見数の偏りなどはあるのか。(部会員)

⇒1人でたくさんの意見を出されている方も確かにいる。
- ・1-2ページの冒頭に出てくる「私たち」と、1-3ページに出てくる「私たち」とは誰のことを指しているのか。(部会員)

⇒1-2ページの「私たち」とは、新宿区に住んでいる人や働きに来ている人など、この計画で想定している区民を指し、1-3ページの「私たち」は一般的な人たちを指している。(事務局)

⇒この書き出しは、区民も全てこの計画の当事者ですよということがうまく現わされていて良いと思う。(部会員)
- ・リサイクル活動センターや公園など区内の環境資源を示した位置図などがあると楽しくて良いかもしれない。少なくとも計画書に固有名詞がでてくるものの位置図があると良い。(部会員)

⇒温暖化対策指針ではかなり詳細な位置図を作成したが、テーマが限定的であり、作りやすかった。ただ、今回の計画では環境要素が多いため、そこまでのものは難しい。(事務局)

⇒小学生に配布している環境日記には簡単な位置図が載っており、それを参考にしようか。(部会員)

⇒10年後見た時にどう変わったというのが空間的に理解するのに役立つかもしれない。(部会長)

⇒イメージ的なものであれば対応は可能かと思うので一度検討する。(事務局)

(3) その他

- ・11/22の第4回環境審議会に今回の意見なども含め答申案を審議していただき、それをもとに12/26の第5回環境審議会に答申を区長に渡すという予定にしている。また、それを受けて、年明けに区としての最終的な計画としてまとめていく。

以上